

# 教宣 せぶん

## 信州で聞いた「田崎さんのたたかい」

先日、長男が通う高校の野球部の卒部式に出かけました。長男はまだ1年生で、3年生やその保護者を送る立場として参加したわけですが、関西方面からも球児が集まるこの高校では1年生から3年生の保護者が一同に会する機会は珍しく、3年生の保護者の方とはほとんどが初対面でした。

その後、謝恩会があり、卒部式に参加した保護者が列席しました。宴も盛り上がってきた頃、卒業する3年生の生徒の保護者が一人ずつ壇上にあがり、3年間の思い出や指導者に対する感謝の言葉を述べていきました。5～6番目の方だったでしょうか、大阪から子供を預けていたお母さんが挨拶に立ちました。ひと通り感謝の言葉や思い出を話された後、

「さきほどこの高校でも校長によるパワハラがあると聞きました。実は大手企業に勤める私の友だちが、やはり上司からパワハラを受けて裁判に訴えてたたかっています。多くの仲間を支えられて、いまがんばっています」と話されました。「田崎さんのことだ」と直感しました。田崎さんのたたかいについては、正直言って詳しくは知りませんでしたが、「西日本執行委員会ニュース」や「NANIWA」で、その日のたたかいの様子やスケジュールが伝えられるたびに、「田崎さんのたたかい」が頻繁に登場しており、上司によるパワハラのたたかいだという認識は持っていました。

このシチュエーションのなかで、私たちのたたかいと一緒にすすめられている「働くもののたたかい」が話題にあがる偶然にビックリしました。発言した保護者の方もまさか「田崎さんのたたかい」を知っている者が、大阪から遠く離れたこの会場にいるとは思わなかったでしょう。それだけこうしたたたかいの裾野が広まっていると言えますし、パワハラや不当労働行為など立場の強いものが弱いものを虐げる事件が、日常にゴロゴロしているあらわれなのかもしれません。そういった意味では、私たちの世論に訴える運動はまだまだ広がりを見せられるはずですし、このことは偶然ではなく必然だったのかもしれません。

企業がスポンサーについている報道機関では、企業の不祥事や「事実」を伝えるには限界があります。ピラを配り、ハガキを書いてもらい、そういった草の根運動を展開していくことで伝わっていく事実もあるはずです。臨時大会で確認された世論に訴える取りくみ、自信と確信をもってすすめていきましょう。